

地方局等の取組みについて

平成25年1月18日

北海道ブロックの取組について

平成25年1月18日
北海道開発局、北海道運輸局

【会議名称】 北海道におけるバリアフリー施策の増進に関する地域連絡会議
(本局単位)

【メンバー構成】

- ・バリアフリーリーダー
- ・交通事業者等（JR北海道、札幌市交通局、北海道バス協会、北海道ハイヤー協会、北海道旅客船協会）
- ・行政機関（北海道庁、北海道開発局、北海道運輸局、新千歳空港事務所）

【議題】

- ・国におけるバリアフリー施策の取組状況
- ・前回会議のフォローアップ
- ・バリアフリーに関する行政相談事例の紹介
- ・交通事業者におけるバリアフリーに関する取組
- ・北海道庁におけるバリアフリーに関する取組
- ・意見交換

【開催頻度】 年1回

【課題】

全国バリアフリーネットワーク会議との連携が弱く、いただいた意見をバリアフリー施策に活かす仕組みとしては不十分なものになっている。

管内のバリアフリーリーダーの現状

- 【リーダー】
- ・北海道内の地域毎に1～2名ずつ、合計10名選任。
 - ・内訳は、学識経験者1名、障害当事者2名、NPO法人役員2名、社会福祉協議会役職員3名、その他2名。
- 【活動内容】
- ・主として、バリアフリー地方連絡会議への参画や各地で実施するバリアフリー教室の講師として活動
 - ・その他、運輸局が実施するセミナー等の事業に関する協力
- 【課題】
- リーダー間のネットワークづくりに積極的に関与できていない。

東北ブロックの取組について

平成25年1月18日
東北地方整備局、東北運輸局

管内のバリアフリー地方連絡会議の現状

【会議名称】 バリアフリーリーダー連絡会議（本局単位）

【メンバー構成】 バリアフリーリーダー、東北運輸局

【議題】 「運輸局の取組みについて」、「リーダーからの講演」等

【開催頻度】 年1回

【課題】 リーダー同士の連携を今後どのような活動に展開していくか。

【会議名称】 公共交通利便性向上・バリアフリー促進会議（支局単位）

【メンバー構成】 交通アドバイザー（8名程度）、交通事業者・団体、
地方自治体、東北運輸局

【議題】 「公共交通機関に対する意見・要望及び取組状況」、「公共交通に対する
施策等」等、公共交通全般について

【開催頻度】 年1～2回

【課題】

- ・ 地域の実情等を踏まえた多様な人々の参画を得るようにしているが、都市部から離れた地域では、公共交通に対する意識が薄く公共交通機関の利用者も少ない。その中で会議開催に対する理解を得たり、交通アドバイザー等を選定したりするのに苦労している。
- ・ 苦情申出の場とならないよう、事業者の立場を理解していただくとともに、前向きな意見を出していただくようお願いをしている。

管内のバリアフリーリーダーの現状

- 【リーダー】
- ・東北ブロック内で合計9名選任。
 - ・内訳は、学識経験者1名、障害当事者1名、NPO法人4名、社会福祉法人2名、その他1名。
- 【活動内容】
- ・バリアフリー教室の講師、バリアフリー教室の開催方法等に関する助言
 - ・支局主催の「公共交通利便性向上・バリアフリー促進会議」等へ委員として参画
 - ・バリアフリー施策に対する意見や提言
 - ・バリアフリーセミナー等への参画
- 【課題】
- リーダーの育成

関東ブロックの取組について

平成25年1月18日

関東地方整備局、関東運輸局

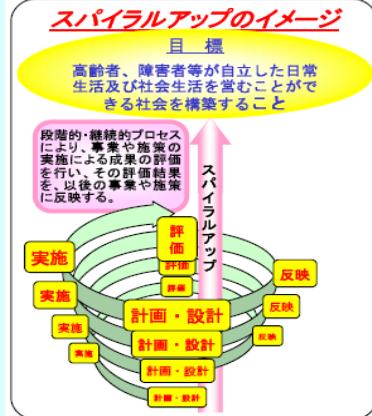
バリアフリー法に基づき、地域の一体的・総合的なバリアフリー化を効果的に推進するため、国をはじめとし、生活環境のバリアフリーに関係する方々のバリアフリーに関する取組を継続して行うことに加え、障害当事者等と施設管理者間で情報を共有し、理解を深め、より良い協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展を目指す。

地域におけるバリアフリー化に関する
進捗状況、先進事例等の情報提供

バリアフリーネットワーク会議

- ＜平成24年度支局開催＞（座長）
- 東京運輸支局：H24.11.27（福島大学 吉田先生）
 - 神奈川運輸支局：H24.12.10（横浜国立大学大学院 中村先生）
 - 千葉運輸支局：H24.10.24（日本大学 藤井先生）
 - 埼玉運輸支局：H25. 2. 予定（東洋大学 高橋先生）
 - 茨城運輸支局：H25. 2. 6（茨城大学 山田先生）
 - 群馬運輸支局：H25. 1. 23（前橋工科大学 湯沢先生）
 - 栃木運輸支局：H24.11.20（宇都宮大学大学院 森本先生）
 - 山梨運輸支局：H24.11.20（山梨大学大学院 佐々木先生）

【事務局】：運輸支局



- ＜平成24年度本局開催＞（座長）
- 関東運輸局・関東地方整備局：H24.12.7
 - （北星学園大学 秋山先生）



【事務局】：運輸局・整備局

意見交換・情報の共有

- ▶ 各地域の委員からの意見提言の収集
- ▶ バリアフリー施策の情報提供
- ▶ バリアフリー用語集
- ▶ 会議概要のHPへの掲載 等

当事者参加による継続的改善を図り、バリアフリー化の
推進をハード・ソフトの両面から一元的に広めていく。

参加者

- ▶ 学識経験者
- ▶ 高齢者・障害者団体等
- ▶ 施設設置管理者
- ▶ 公共交通事業者団体
- ▶ 地方公共団体 等

情報提供
報告

国土交通省

ハード・ソフト面のバリアフリーやユニバーサルデザインに関する有識者、先進的な取り組みを実施している自治体関係者、基本構想の作成やボランティア活動等において熱心な活動をされている方（NPO団体、社会福祉協議会など）等からなる意見交換の場として、平成17～18年度にかけ有識者会議を設置し、同会議を経て、学識者、専門家、熱心に活動を行う者がバリアフリーリーダーとして選定され現在に至っている。また、バリアフリーリーダー会議を行うことにより、リーダー同士のネットワークづくりや全体のレベルアップを図っている。

なお、全国の運輸局毎にバリアフリーリーダーは選定されており、当局ではバリアフリーリーダー会議を平成19年度から年1回開催している。

バリアフリーリーダーの役割・活動

- バリアフリーネットワーク会議への参画（基調講演等）
- バリアフリー基本構想策定セミナーへの参画（講演及びパネルディスカッション等）
- バリアフリー教室等の講師として参画

バリアフリーリーダーの内訳 (平成24年現在)

- 学識経験者 4名
- NPO法人等 2名
- 障害当事者団体 1名
- 社会福祉協議会 1名
- 行政関係者 3名

バリアフリーリーダー構成



バリアフリーリーダー会議



基本構想策定支援セミナーでの講演

北陸ブロックの取組について

平成25年1月18日
北陸地方整備局、北陸信越運輸局

【会議名称】 バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会議
（本局単位（新潟・長野・富山・石川の4県を対象））

【メンバー構成】

- ・学識経験者
- ・バリアフリーアドバイザー
- ・行政機関（地方公共団体、整備局、運輸局）

【議題】

- ・バリアフリーに関する取組み
- ・国の施策の状況
- ・委員提出課題 等

【開催頻度】 年1回

【課題】 対象地域は4県であるが、広範囲であり交通の便も悪いため、委員の負担を考えると年1回の開催が限界であり、開催地を持ち回りにして負担が偏らないようにしている。

管内のバリアフリーリーダーの現状

- 【リーダー】
- ・北陸ブロック内では「バリアフリーアドバイザー」と呼称し、6名選任。
 - ・内訳は、学識経験者2名、障害当事者団体1名、NPO法人3名。
- 【活動内容】
- ・バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会議の委員
 - ・バリアフリー教室の講師
- 【ネットワークづくりのための取組】
- ・バリアフリーリーダーのメールアドレスを整備し、運輸局等から情報提供するとともに、バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会議に参加していただいている。
 - ・バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会議を北陸信越運輸局と北陸地方整備局で共催し、各県・政令市に委員として参加していただいている。
- 【課題】
- 自治体や事業者に提案できるリーダーが必要

中部ブロックの取組について

平成25年1月18日
中部地方整備局、中部運輸局

目的

官民協働による豊かな福祉社会の実現に向け、各地域における情報ネットワークを構築することにより、効率的・効果的な施策の展開を図る。

情報ネットワークの必要性

交通や施設等に関する多様なニーズに対応するには、各地域の実情を把握する必要があるが、情報の収集及び提供を行う場がないため、そういった機会を創出する必要がある。

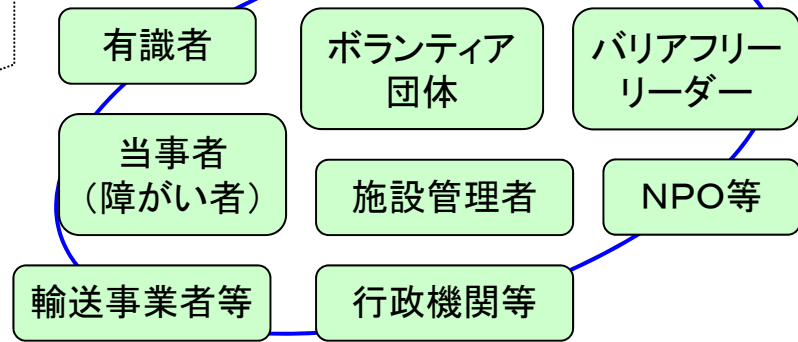
協働の相手先

行政担当者、学識者、社会福祉協議会、ボランティア団体、NPO法人、施設管理者等

情報ネットワークの構築

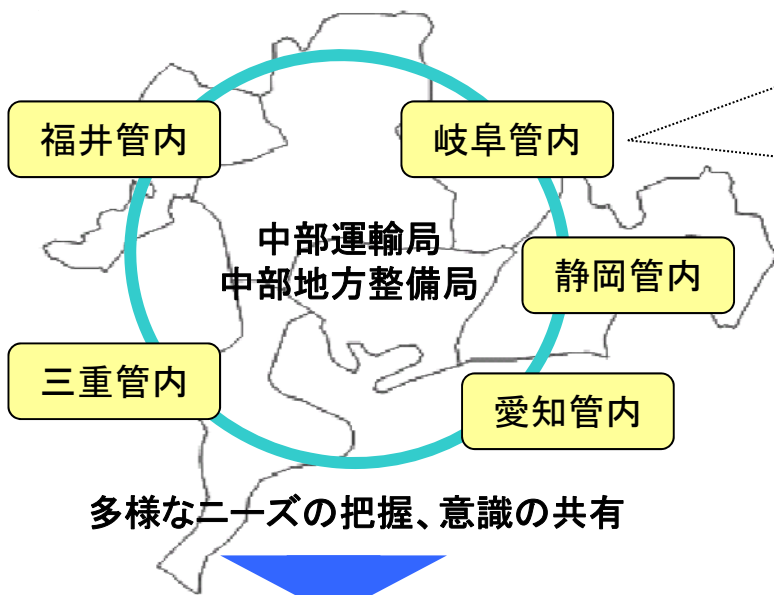
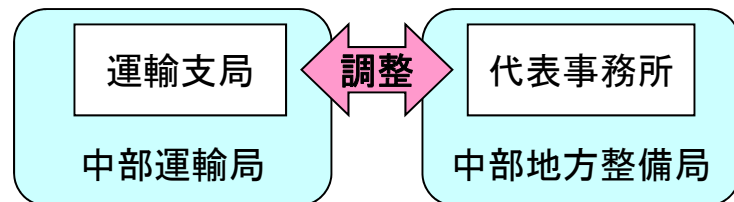


ネットワークの輪



福祉関係課

まちづくり関係課



多様なニーズの把握、意識の共有

効率的・効果的な施策の展開

管内のバリアフリーリーダーの現状

- 【リーダー】 現在3名のリーダーを選任しており、内訳は学識経験者（ハード）系2名、現場調整（ソフト）系かつ車いす利用者が1名。
- 【活動内容】 バリアフリー施策の実施にあたり、手法等についての助言をいただいている。
- 【課題】 リーダーの育成

近畿ブロックの取組について

平成25年1月18日

近畿地方整備局

近畿運輸局

神戸運輸監理部

第1回近畿地域バリアフリーネットワーク会議【大阪府】

日時:平成24年3月14日(水)14:00~16:00

場所:大阪合同庁舎第4号館10階 海技試験室

委員:バリアフリーリーダー、高齢者団体、障がい者団体(身体障がい・視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい)、鉄道事業者、鉄道事業者団体、バス事業者団体、タクシー事業者団体、旅客船事業者団体、自治体(府県・政令指定都市)、国(近畿地方整備局・近畿運輸局及び運輸支局・神戸運輸監理部・大阪航空局)

共催:近畿地方整備局、近畿運輸局、神戸運輸監理部、大阪航空局

内容:1. 近畿におけるバリアフリー化の現状等について

2. 平成23年度交通消費者行政会議の報告

奈良運輸支局・滋賀運輸支局・和歌山運輸支局

3. 旅客施設、車両等、通路、公園におけるサインの現状について

4. 意見交換



【滋賀県内】

開催日:平成24年1月24日

議題:浜大津地区旅客施設のサインの現状について

委員等:学識経験者、高齢者団体、障がい者団体(肢体障がい・視覚障がい)・鉄道事業者・バス事業者・旅客船事業者・自治体

【奈良県内】

開催日:平成24年3月2日

議題:旅客施設や車両等のサイン(音声案内)の現状について

委員等:学識経験者、高齢者代表、障がい者団体(視覚障がい)、鉄道事業者、バス事業者、交通事業者団体、自治体

【和歌山県内】

開催日:平成24年1月11日

議題:車両等のサイン(案内表示)について

委員等:学識経験者、高齢者団体、障がい者団体(肢体障がい)、鉄道事業者、旅客船事業者、交通事業者団体、自治体

○近畿地域バリアフリーネットワーク会議で出た意見等

- ・駅の音声案内が交錯して煩わしい。不要な音声案内を控える、音を出すタイミングを工夫してはどうか。
- ・音に過敏な障害者には、どの音を拾ったら良いのか分からず、パニックになる。
- ・バリアフリートイレ内の操作位置が千差万別で、非常に使用しづらい。
- ・床面表示は混雑時は見にくい。
- ・床面にラインを引っ張って貰えれば、辿っていける。
- ・各社、経営が厳しいのは理解しているが、やはりマンパワー(駅員等)による案内が一番安心できる。
- ・障がいのある方が外出する場合、そこにはある意味、消費者としての大きなニーズがあるのではないか。電車、バス、タクシー、船、飛行機に乗ることは、人を動かすこと。人が動くことによって、町を動かし、国を活性化していくという非常に大きな役割を担っていると思う。
- ・基本構想の継続改善が協議されていないし、近畿では基本構想に建築物をほとんど盛り込んでいない。
- ・日本のバリアフリーは非常に進んでいて、外国からの関心が相当高い。理由は、たくさんの事業者が存在するなかで、バリアフリー施設の整備が進んでいることである。しかし、バリアフリー施設の配置とかの運用面、また、どのように計画を策定していくかがまだまだ足りないので、協議会等の場で当事者からのご意見を聞き、コミュニケーションを取りながらバリアフリー化を進めていくことが大変重要である。

○近畿地域バリアフリーネットワーク会議の課題

- ・本会議(府県別ネットワーク会議を含む)の委員から出た意見について、本省に報告・検討されるが、その結果(現状)のフィードバックが十分出来ていない。
- ・「本会議の小委員会等も開催して欲しい。」との意見が出たが、企画が困難。
- ・多岐に亘る関係機関等との調整で、開催時期が年度末になっているが、「全国バリアフリーネットワーク会議」より以前に開催したい。
- ・本会議の内容が、交通モードに偏り気味で、公園・広場・建物等の施設も含めた議論が必要。

【メンバー構成】

- ・学識経験者[土木工学](ハード系)3名、自治体職員[技術職員](ハード系)1名、NPO(ソフト系)1名、社会福祉(ソフト系)1名、交通経済(ソフト系)1名 合計7名

■第1回近畿バリアフリーリーダー会議

日時:平成24年3月14日(水)16時20分～17時30分 場所:大阪合同庁舎第4号館13階 会議室

委員:バリアフリーリーダー5名(7名中5名出席)

近畿運輸局及び各運輸支局、神戸運輸監理部兵庫陸運部

内容:1. 現状報告 ①バリアフリーリーダーについて ②近畿運輸局管内基本構想作成状況
③心のバリアフリーの取り組み(BF表彰、BF教室)

2. 意見交換・情報交換

※平成25年3月15日(金)に、第2回近畿バリアフリーリーダー会議を開催予定

【活動内容】

- ・「バリアフリー基本構想作成推進セミナー」の講師。
- ・法律改正等説明会及び各種講演会の講師。
- ・「近畿地域バリアフリーネットワーク会議」の座長及び委員。
- ・「府県別バリアフリーネットワーク会議」の座長。
- ・自治体からの質問等への対応時の助言。

【リーダーのネットワークづくり】

- ・リーダー同士が、相互に連絡を取り合えるように、リーダー会議の場で名簿を配布。

【課題】

- ・バリアフリーリーダー会議が年1回の開催に留まっており、リーダー同士による「情報共有とスパイラルアップによる方策」が生まれにくい。

中国ブロックの取組について

平成25年1月18日

中国地方整備局、中国運輸局

バリアフリー等地域連絡会議の取組

会議の枠組み・開催時期

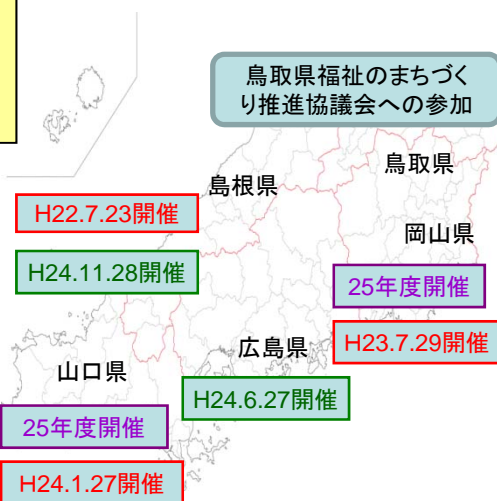
「きめ細かな意見聴取のための本省方針」
・年複数回実施・本局所在地以外での実施に基づき、H22年度～各県単位の会議を立ち上げた。

中国地方バリアフリー等連絡会議

H20年度～年1回開催。
H23年度に国・自治体のみを構成員とすることで組織改編。開催は随時。

各県バリアフリー等地域連絡会議

・事務局：中国地方整備局・中国運輸局（広島・鳥根はH24年度～自治体も参加）
・平成22年度より各県単位の組織化
・開催地：右図（毎年2県で開催）



会議構成員

- 学識経験者：大学の建築・福祉系学科の教授等
- 障がい者・高齢者団体
- 交通事業者等：鉄軌道事業者・バス/タクシー協会・旅客船協会・空港ビル管理事業者・ホテル協会・旅館生活衛生同業組合
- 国：整備局（本局・国道事務所）・運輸局（本局・支局）
- 自治体：各県・市（市のメンバーは県と調整のうえ決定）
土木系・福祉系・交通系の担当者が出席
- その他必要に応じて（例：講演講師・バリアフリーリーダー）



会議の内容

会議の内容

地域ごとのバリアフリー取組報告、
先進事例紹介・講演など

各県会議の意見交換のテーマ

- ・岡山：バリアフリー化した施設等の情報発信の方策
- ・山口：山口国体・山口大会における取組と今後のバリアフリー
- ・広島：①ひろしま菓子博でのサポートボランティアのあり方
②公共交通機関での譲り合いの席・優先席活用方法
- ・鳥根：バリアフリーに関する情報発信のあり方

各県会議のフォローアップ

- H23年度会議意見交換のフォローアップ●
→岡山県会議・山口県会議：
 メーリングリスト作成・リストを活用した情報発信
- H24年度会議意見交換のフォローアップ●
→広島県会議：
 菓子博事務局に会議結果報告・研修資料等提供
 公共交通利用者保護推進員会議に結果報告
 エコモ財団の調査結果を構成員あて報告
→鳥根県会議：（※予定）
 意見・提案を構成員及び団体傘下会員に展開
 IT講習会の案内など

課題

- ①障がい者・高齢者団体、施設設置管理者と立場の違う者が参加者として、お互い「建設的な意見交換」を行えるような共通のテーマ設定が難しい。
- ②会議開催頻度の問題。

バリアフリーリーダー育成事業の取組

リーダーの選定基準

■バリアフリーリーダー育成事業実施要領により選考

- 対象者：学識経験者・自治体職員・各団体で意見調整やバリアフリーの啓発・普及活動に協力して頂ける方
- 推薦・選任：推薦は各県単位のバリアフリー等地域連絡会議開催時に、会議構成員より推薦。（事前に事務局より推薦依頼）構成員の過半数の承認により選任
- 任期：更新制。期間は、バリアフリー等地域連絡会議開催年度を含む3カ年度（年度更新）。更新方法は推薦・選任に同じ。
- 活動内容：バリアフリー教室講師・バリアフリー等地域連絡会議やセミナーの講演講師等
- 委員委嘱状の発行：なし

リーダーの現状

- 広島県9名、島根県2名。鳥取・岡山・山口＝推薦無し
内訳：学識経験者：1名、NPO法人所属（障がい者団体役員）8名
- 任期：H27年3月まで

- 1.（国推薦）NPO法人理事・車いすユーザー。福祉新聞発行・車いす開発・車いす体験学習会など開催。
- 2.（国推薦）市身体障害者福祉協会理事・車いすユーザー。ボランティア研修会開催・バリアフリー関連各種委員会に参加。
- 3.（国推薦）広島ハーネスの会理事・盲導犬ユーザー。盲導犬写真展開催、盲導犬の理解を進める講演講師。
- 4.（社団法人推薦）地域活動センター施設長。ボランティア入門講座講師、精神障がい者の自立扶助活動。
- 5.（県推薦）NPO法人理事。車いすユーザー。市移動円滑化基本構想検討委員会委員。バリアフリーツアーセンターの設立、運営
- 6.（県推薦）高専准教授。「みんなにやさしい観光トイレマップ政策実行委員会」代表。H21年度ユニバーサルツーリズム事業に協力。

- 7.（国推薦）社会福祉法人常務理事。知的障がい者共同作業所の運営・啓発活動。障がい者スポーツ振興。
- 8.（県推薦）NPO法人理事。観光バリアフリー推進、バリアフリーマップ作成、バリアフリー映画等上演、障がい者向け機器開発
- 9.（国推薦）NPO法人理事長。盲導犬ユーザー。観光バリアフリー推進、障がい者パソコン講習会開催、バリアフリー映画上映

リーダーのネットワークづくり

1. バリアフリー教室講師や講演講師での共演
H23年度バリアフリー教室：7リーダー参加
H24年度バリアフリー教室：7リーダー参加
H23年度中国地方バリアフリー等連絡会議講演講師：2名
H24年度島根県バリアフリー連絡会議講演講師：1名
2. バリアフリー等連絡会議への参画
（H23年度中国地方バリアフリー等連絡会議に参加（全リーダー））
3. バリアフリーリーダー会議の開催
H24年度広島県バリアフリー等地域連絡会議と同日開催。
議題：①リーダー活動状況の紹介・報告
②今後のバリアフリー教室開催方法への提案



課題

- リーダー不在の県あり。
- リーダーの活用の難しさ。（教室等の開催回数・内容により、活動の場が制限される。）
- 会議構成員からの推薦が少ない。

四国ブロックの取組について

平成25年1月18日
四国地方整備局、四国運輸局

①四国におけるバリアフリーの取り組み状況

【バリアフリー地方連絡協議会の現状】前年度・平成24年3月1日開催(年1回)

○会議名称:「バリアフリー推進四国地域連絡会議」運輸局単位で実施。

○メンバー:有識者2名(大学教授・大学講師)、当事者団体7名((財)香川県身体障害者協会他)、施設設置管理者6名(JR他)、自治体8名(県・市)、整備局・運輸局・空港事務所。

○議題:・学識経験者によるバリアフリー等に関する講演
・全国バリアフリーネットワーク会議報告
・四国運輸局及び四国地方整備局の取組報告
・四国におけるバリアフリー化の目標
・四国運輸局長表彰(観光バリアフリー)
・バリアフリーリーダーの確保・育成について
・意見交換会等 (前年度例)

○課題:意見交換会での当事者団体からの意見・要望が多く、また狭い範囲(自宅前の歩道が狭いといったような)の要望が多く、回答及びフォローに窮する事がある。
改善すべき点としては、当事者団体等の会議メンバーを固定しておりマンネリ化を感じることから、新しい会議メンバーの発掘の必要性がある。
本省には担当官に標記会議に出席していただき、バリアフリーに関する最新事例等の紹介をお願いしたい。

②四国におけるバリアフリーの取り組み状況

【バリアフリーリーダーの現状】

- 選定について : バリアフリーリーダーについては、当課主催の会議における座長クラスの学識経験者、NPO団体、県、基本構想を策定した自治体、社会福祉協議会などから推薦がある方及びこれまでバリアフリー教室講師などでご協力をいただいている方を推薦してもらい、選定委員会（有識者、自治体関係者、バリアフリーボランティア活動等において熱心な活動をされている方、障がい者団体等）において参加者の過半数の同意によりリーダーを選出している。選定はブロック単位の会議である「バリアフリー推進四国地域連絡会議」において決定している。
- リーダー : 現在2名のリーダーを選定（現場調整・ソフト系）
老人クラブ連合会会長（82才）・身体障害者協会会長（79才）
- 活動内容 : 当課主催の「バリアフリー推進四国地域連絡会議」において、公共交通、公共道路、公共駐車場等の改善等について意見を伺うことでリーダーを活用している。
- ネットワーク : 少数であり、リーダー間のネットワークづくり等は実施していない。
- 課題 : 四国のリーダーは、高齢者団体、障がい者団体の2名のみで、会議の席上の発言でも行政への要望が中心となっているのが現状。基本構想等の策定が進まないなか、リーダーとして活躍いただける場が少ないと考えている。また、新たなリーダーの確保・育成も必要となっている。

九州ブロックの取組について

平成25年1月18日
九州地方整備局、九州運輸局

九州バリアフリー等連絡会議の現状と課題

九州運輸局及び九州地方整備局は、平成22年度より「九州バリアフリー等連絡会議」を年1回開催しています。この会議は、高齢者、障がい者をはじめとする全ての人にとって、安全、快適に暮らしていける生活環境を実現するなど、バリアフリー化の推進について、地域に密着した情報の共有をはじめとした意見交換等を行うことで相互間の理解を深め、より良い協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展を目指すことを目的としています。会議は、九州管内のバリアフリーリーダーをはじめ、高齢者・障がい者等の各団体、交通関係団体、交通事業者、行政から構成されています(座長:国際医療福祉大学 齋場先生(バリアフリーリーダー))。

「九州バリアフリー等連絡会議」開催状況

第1回:平成23年3月7日開催

議 事:①会議設置要綱について

- ②全国バリアフリーネットワーク会議について
- ③九州運輸局におけるバリアフリー施策について
- ④各県におけるバリアフリー施策について
- ⑤各団体等におけるバリアフリー施策について
- ⑥意見交換

第2回:平成24年2月15日開催

議 事:①全国バリアフリーネットワーク会議の報告

- ②九州運輸局におけるバリアフリー施策について
- ③九州地方整備局におけるバリアフリー施策について
- ④各県におけるバリアフリーの取り組み
- ⑤各団体等におけるバリアフリーの取り組み
- ⑥意見交換

※九州運輸局交通バリアフリー等関係表彰式を併せて開催

第3回 平成25年2月6日開催予定

※九州運輸局交通バリアフリー等関係表彰式を併せて開催予定

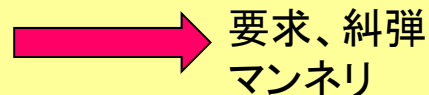


「九州バリアフリー等連絡会議」メンバー

- ・各県バリアフリーリーダー8名
- ・障がい者等団体7団体
- ・交通事業者2社
- ・交通事業者団体3団体
- ・空港施設管理者1社
- ・各県バリアフリー施策担当部署
- ・政令市バリアフリー施策担当部署
- ・国関係機関(運輸局・整備局・大阪航空局)
- ・オブザーバー等

課 題

- 情報共有、意見交換



- 福祉まちづくり条例



各県バリアフリー等地域連絡会議未設置

九州運輸局バリアフリーリーダーの現状と課題

バリアフリーリーダーの選定について

バリアフリーリーダーには、学識経験者、NPO団体や社会福祉協議会等の職員、障がい当事者の中から、関係機関や障がい者の立場を理解し、関係機関や障がい者との意見調整を行うことができる方を選定している。

選定にあたっては、各県バリアフリー地域連絡会議の推薦を基本としているが、各県バリアフリー地域連絡会議が立ち上がっていないため、各運輸支局の推薦により選定している。

九州各県選定状況

福岡県 1名、佐賀県 1名、
 長崎県 2名、熊本県 1名、
 大分県 1名、宮崎県 1名、
 鹿児島県 1名

バリアフリーリーダーの活動内容

- ①九州バリアフリー等連絡会議への参画
- ②各県バリアフリー地域連絡会議への参画
- ③バリアフリー推進セミナー開催への協力
- ④バリアフリープロモーター派遣への協力
- ⑤バリアフリー教室開催への協力
- ⑥バリアフリー人材発掘等の協力
- ⑦その他、九州運輸局のバリアフリー施策への協力

課題

- 各バリアフリーリーダー間の連携をどのように図るか。
- 各バリアフリーリーダーの取組を国としてどのように展開を図るか。



(バリアフリー推進セミナー)



(バリアフリー講習会)

沖縄ブロックの取組について

平成25年1月18日
沖縄総合事務局

【会議名称】 沖縄地方バリアフリー推進連絡会議（本局単位）

【メンバー構成】

- ・ 学識経験者
- ・ 障害当事者団体
- ・ 観光・運輸関係業界団体
- ・ 社会福祉関係団体
- ・ 行政機関（沖縄県、那覇市、沖縄総合事務局）

【議題】 主に当局及び各団体からの取組報告と意見交換

【開催頻度】 年1回

【課題】 管内初となる基本構想作成に向けた取組が宮古島市において進められており、他自治体の取組への呼び水となるよう、同会議を有効活用していくことが必要。

管内のバリアフリーリーダーの現状

- 【リーダー】
 - ・ 沖縄ブロック内で合計2名選任。
 - ・ 内訳は、学識経験者1名、社会福祉協議会1名。

- 【活動内容】
 - ・ 基本構想作成に関する当局のプロモーター活動に同行し、自治体へ働きかけ
 - ・ 沖縄地方バリアフリー有識者会議に参加し、当局の取組などに対する意見交換 等

- 【課題】

管轄エリアが1県のみであり、人材に限りがあるものの、将来的には現リーダー以外の人材も必要。